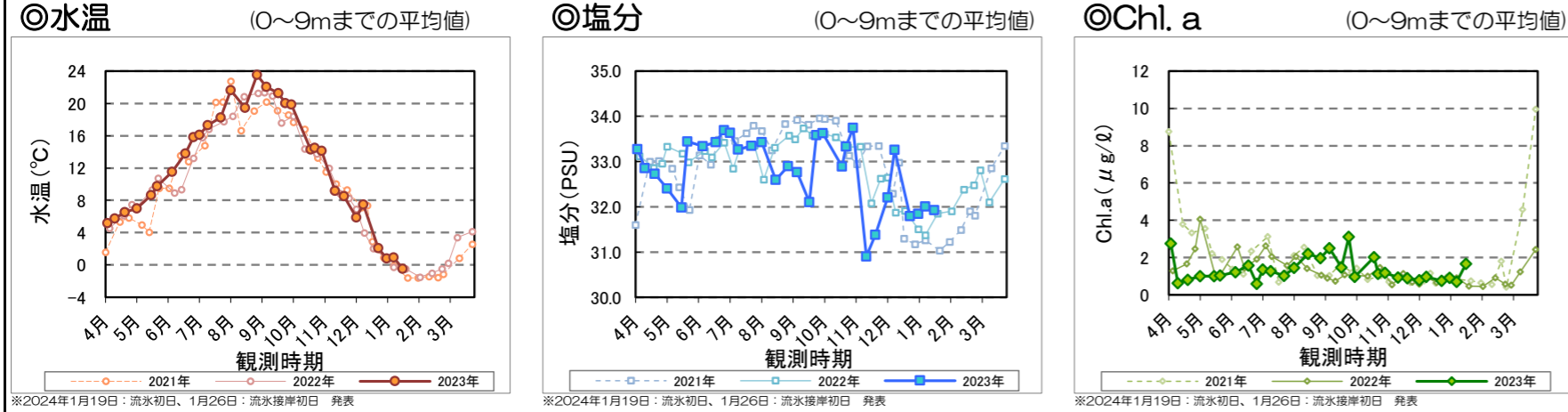
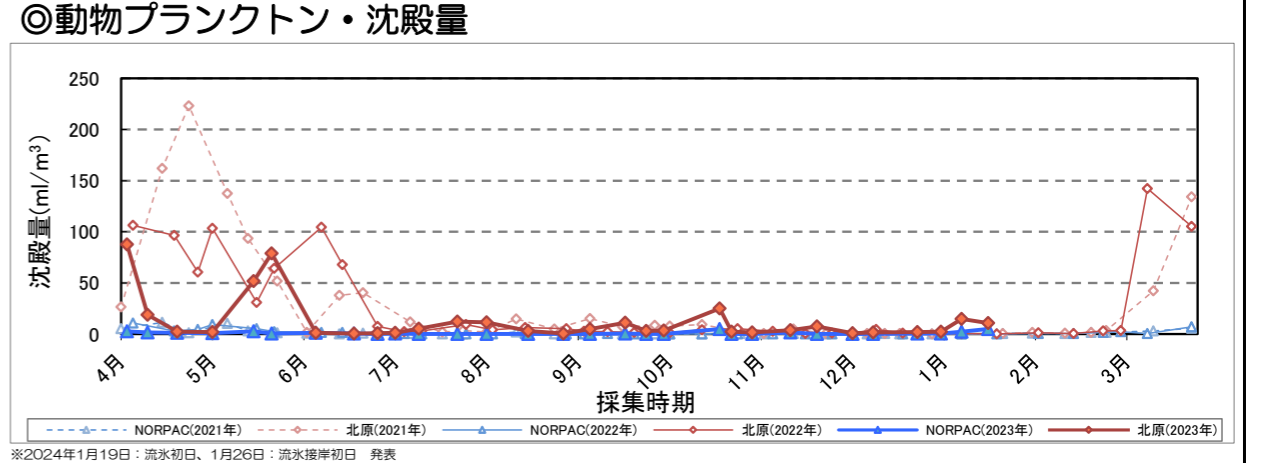


◎オホーツクタワーの動物プランクトン分析速報 (2024年1月)

海洋環境データ



動物プランクトンデータ



概要

| | 1月4日 | 1月11日 | 1月20日 |
|--------------------------|--|--|---|
| 平均水温 (°C) | 0.8 | 0.9 | -0.5 |
| 平均塩分 (PSU) | 31.8 | 32.0 | 31.9 |
| 平均Chl.a (μg/l) | 0.9 | 0.7 | 1.7 |
| 沈殿量 (ml/m ³) | (NORPACネット) 0.5 (北原式定量ネット) 2.2 | (NORPACネット) 2.4 (北原式定量ネット) 14.8 | (NORPACネット) 5.0 (北原式定量ネット) 10.6 |
| 主な出現種 | <p>(NORPACネット)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎Acartia hudsonica [+++] (イソ類：アカア・ホドノカ) [汽水性] ○Acartia longiremis [+] (イソ類：アカア・ロギノミ) [冷水性] ○Calanus glacialis [+] (イソ類：カス・グ・ラツアリ) [冷水性] ○Centropages abdominalis [+] (イソ類：セントパ・ジ・ス・アブドミナリス) ◎Pseudocalanus newmani [+++] (イソ類：シュウド・カス・ニューマン) [冷水性] ○Pseudodiaptomus marinus [+] (イソ類：シュウド・テイア・マリン) [汽水性] <p>(北原式定量ネット)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○Acartia hudsonica [+] (イソ類：アカア・ホドノカ) [汽水性] ○Acartia longiremis [+] (イソ類：アカア・ロギノミ) [冷水性] ◎Pseudocalanus newmani [++] (イソ類：シュウド・カス・ニューマン) [冷水性] ○Eurytemora herdmanni [++] (イソ類：ユリテモ・アルドマコ) [冷水性/汽水性] ◎Oithona similis [+++] (イソ類：オイトナ・シミリス) [冷水性] | <p>(NORPACネット)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎Acartia hudsonica [++] (イソ類：アカア・ホドノカ) [汽水性] ○Acartia longiremis [++] (イソ類：アカア・ロギノミ) [冷水性] ○Pseudocalanus minutus [+] (イソ類：シュウド・カス・ミニユス) [冷水性] ◎Pseudocalanus newmani [++++] (イソ類：シュウド・カス・ニューマン) [冷水性] <p>(北原式定量ネット)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○Acartia hudsonica [+] (イソ類：アカア・ホドノカ) [汽水性] ◎Pseudocalanus newmani [++++] (イソ類：シュウド・カス・ニューマン) [冷水性] ◎Eurytemora herdmanni [++] (イソ類：ユリテモ・アルドマコ) [冷水性/汽水性] ◎Oithona similis [+++] (イソ類：オイトナ・シミリス) [冷水性] ○Microsetella norvegica [++] (イソ類：ミクロセタ・ノルウェー) [暖水性] | <p>(NORPACネット)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎Acartia hudsonica [++] (イソ類：アカア・ホドノカ) [汽水性] ○Acartia longiremis [+] (イソ類：アカア・ロギノミ) [冷水性] ○Pseudocalanus minutus [+] (イソ類：シュウド・カス・ミニユス) [冷水性] ◎Pseudocalanus newmani [++++] (イソ類：シュウド・カス・ニューマン) [冷水性] ○Eurytemora herdmanni [++] (イソ類：ユリテモ・アルドマコ) [冷水性/汽水性] ◎Oithona similis [++] (イソ類：オイトナ・シミリス) [冷水性] <p>(北原式定量ネット)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○Acartia hudsonica [+] (イソ類：アカア・ホドノカ) [汽水性] ◎Pseudocalanus newmani [++++] (イソ類：シュウド・カス・ニューマン) [冷水性] ○Pseudodiaptomus marinus [+] (イソ類：シュウド・テイア・マリン) [汽水性] ○Eurytemora herdmanni [++] (イソ類：ユリテモ・アルドマコ) [冷水性/汽水性] ◎Oithona similis [++] (イソ類：オイトナ・シミリス) [冷水性] |
| 備考 | (NORPACネット) 腐植質やや多い (北原式定量ネット) 腐植質やや多い | (NORPACネット) 腐植質多い (北原式定量ネット) 腐植質多い | (NORPACネット) 腐植質多い (北原式定量ネット) 腐植質多い |

出現量の多かった種類

- Acartia hudsonica (イソ類：アカア・ホドノカ)
体長：♀0.8-1.2mm, ♂0.7-1.0mm. 北米東岸、北岸および九州以北の北西太平洋沿岸、内海、汽水域に分布する。日本では内海が汽水域に分布が限られる。
- Oithona similis (イソ類：オイトナ・シミリス)
体長：♀0.7-1.0mm, ♂0.6-0.7mm. 各地の内海、沿岸、外洋で普通に出現する。日本各地の沿岸にみられる代表的な種類である。各大洋に多く分布するが、比較的冷水を好み、外洋より沿岸に多い。
- Pseudocalanus newmani (イソ類：シュウド・カス・ニューマン)
体長：♀0.9-1.5mm, ♂0.8-1.2mm. 冷水域に極めて普通に出現する。東北以北の沿岸では冬季最盛期占カアシ類の1種となる。
- Copepoda (nauplius) (イソ類：コペポダ)
カイアシ類の発生途中の幼生。脱皮を繰り返してノープリウス幼生、コペポダ幼生の段階を経て成体になる。海産魚類の仔魚生餌には、餌としてのカイアシ類のノープリウス幼生密度が決定のといわれている。
- Eurytemora herdmanni (イソ類：ユリテモ・アルドマコ)
体長：♀1.3-1.4mm, ♂1.1-1.2mm. 主に北半球高緯度地方に分布する。日本では北海道東岸の汽水湖や沿岸域、青森十三海等で知られる。雌の第5脚節は大きな翼状突起で終わり、外方に広がる。
- Sternaspidae (larva) (多毛類：スターナスピダ)
多毛類の発生途中の幼生。ダルマコカイ科は砂泥中にもくって生活する多毛類である。
- Tortanus discaudatus (イソ類：トルタン・ディスカウダ)
体長：♀1.4-2.8mm, ♂1.4-2.5mm. 日本海、北太平洋、チュクチ海、ベーリング海および北西大西洋に分布。内海性。
- Balanomorpha (nauplius) (イソ類：バルノモルファ)
フジツボ類の発生途中の幼生。フジツボ類はほとんどが雌雄同体で、卵の孵化後にノープリウス幼生、キプリス幼生の段階を経て固着生活に移る。

※海洋環境データ欄の水温、塩分、Chl.aのグラフは、水深0~9mまでの平均値をプロットしたものである。平均水温、平均塩分、平均Chl.a欄の数値は、表示の都合上、水深0~9mまでの平均値を小数第2位で四捨五入した値で示し、グラフ上の表示と異なる場合がある。

※種名の先頭に“◎”がつく種類は、出現量の多い種類を示す。[]内の“+”はサンプル中の個体数の多さが後述の程度であると判断し、区分したグループである[+]出現、[++]やや多い、[+++]多い、[++++]かなり多い、[+++++]極めて多い。

※種名の後ろの記号は、分析者の経験から北海道における出現傾向に後述の特徴があると判断し、区分したグループである(●冷水性種、●暖水性種、■汽水性種)。

※今月のサンプルには腐植質(主に枯死・分解した植物由来の物質)が多く含まれており、沈殿量の数値はこれを含む。

※参考文献：
 ①千原・村野 (1997) 日本産海洋プランクトン検索図説[東海大学出版会] / ②山路 (1966) 日本海洋プランクトン図鑑[保育社] / ③岩国市立ミクロ生物館 監修 (2011) 日本の海産プランクトン図鑑[共立出版]
 ④Wilson, M. S. (1966) North American Harpacticoid copepods. 8: The *Daniellsenia sibirica* group, with description of *D. stefanssoni* Willey from Alaska. *Pac. Sci.* **20** (4), 435-444.
 ⑤Pinchuk, A. I. & Hopcroft, R. R. (2006) Egg production and early development of *Thysanoessa inermis* and *Euphausia pacifica* (Crustacea: Euphausiacea) in the northern Gulf of Alaska. *J. Exp. Mar. Biol. Ecol.* **332**, 206-215.
 ⑥林 (2006) 水産無脊椎動物学入門[恒里社学生館] / ⑦Ohtsuka, S., Itoh, H. & Mizushima, T. (2005) A new species of the calanoid copepod genus *Centropages* (Crustacea) collected from Shimizu Port, middle Japan: Introduced or not? *Plankton Biol. Ecol.* **52** (2), 92-99.
 ⑧西・加藤 (2002) 日本産カムリゴカイ科多毛類の分類について. *タクサ*, **13**, 5-17. / ⑨今島 (1996) 環形動物 多毛類[生物研究社] / ⑩日本プランクトン学会 監修 (2011) すかん プランクトン[技術評論社] / ⑪水島・鳥澤 監修 (2003) 漁業生物図鑑 新北のさかなたち[北海道新聞社]
 ⑫古賀 (1960) *Centropages abdominalis* SATOのノープリウス幼生. *日本水産学会誌*, **26** (9), 877-881. / ⑬伊藤・水島・久保田 (2005) 駿河湾三保沖におけるカラヌス目カイアシ類の季節的消長. *東海大学紀要海洋学部*, **3** (1), 19-35.
 ⑭大越・野村 (1990) 穿孔性多毛類 *Polydora* 属による北海道地方、東北地方沿岸のホタテ貝浸食状況. *日本水産学会誌*, **56** (10), 1593-1598. / ⑮峯水・久保田・平野・リンズィー (2015) 日本クラゲ大図鑑[平凡社] / ⑯奥谷 (2017) 日本近海産貝類図鑑【第二版】[東海大学出版部]
 ⑰大塚・上田・岩淵・伊東・徐・坂口・平野・木村・上野 (2007) 移入種か、在来種か? : 清水港から記載された浮遊性カイアシ類の1種の導入の可能性を検証する. *日本プランクトン学会報*, **54** (1), 30-38. / ⑱西村 (1992) 原色検索日本海産動物図鑑 [I] [保育社]